科目名	小児看護学特講Ⅰ	分野・必選別・単位数	専門科目 (小児看護学)	選択必修	2単位

担当教員	◎教授　石舘美弥子						
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	前期	授業方法	講義

授業の概要	小児各期における成長・発達および健康問題を理解し、看護実践するために必要な諸理論を学ぶ。また、子どもと家族を発達の視点でとらえ健康問題に関する現象を考察し、有効な援助方法および研究方法について検討する。
授業の到達目標	1. 子どもの発達段階および発達理論の活用について説明できる。 2. 子どもの健康問題と家族発達との関連について説明できる。 3. 小児看護における研究の動向を把握し、自己の研究疑問についてプレゼンテーションできる。

授業計画

回数	担当者		行動目標
1	石舘美弥子	教　授	講義概説を受け、科目目標・授業計画について説明できる。 自己の課題を確認し、今後の学習計画を立案できる。
2	石舘美弥子	教　授	小児看護領域における健康問題と家族発達との関連について説明できる。
3	石舘美弥子	教　授	小児看護における倫理・子どもの権利について説明できる。
4	石舘美弥子	教　授	フロイト・エリクソンの心理社会的理論の概要を説明できる。
5	石舘美弥子	教　授	ボウルビィの愛着理論の概要を説明できる。
6	石舘美弥子	教　授	ピアジェの認知発達理論の概要を説明できる。
7	石舘美弥子	教　授	フリードマンの家族看護理論の概要を説明できる。
8	石舘美弥子	教　授	学習した理論を基に、小児看護における子どもと家族の健康問題について説明できる。
9	石舘美弥子	教　授	学習した理論を基に事例を分析し、小児看護における子どもと家族への看護実践について討議できる。(1)
10	石舘美弥子	教　授	学習した理論を基に事例を分析し、小児看護における子どもと家族への看護実践について討議できる。(2)
11	石舘美弥子	教　授	小児看護学研究の動向を踏まえて自己の課題を記述できる。(1)
12	石舘美弥子	教　授	小児看護学研究の動向を踏まえて自己の課題を記述できる。(2)
13	石舘美弥子	教　授	これまでの学習を統合し、自己の研究疑問を明らかにし、プレゼンテーションできる。
14	石舘美弥子	教　授	これまでの学習を統合し、自己の研究疑問を明らかにし、プレゼンテーションできる。
15	石舘美弥子	教　授	授業を振り返り、小児看護領域における自己の研究課題を記述できる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておく。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておく。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予習・復習が必要である。

教科書	必要時適宜提示する。
参考書	必要時適宜提示する。
成績評価の方法および基準	課題レポート 60%、プレゼンテーション・質疑応答 40%
その他履修上の注意事項	担当教員と積極的にコンタクトをとり、授業への主体的な参加を望む。文献を活用し、提示の講義内容について事前学習し概要を把握しておく。課題レポートなどに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。